

幼児の健康を目指した表現運動デザインの創作と実践

— 産学官連携事業より —

Expressive Movement Design in Toddler Dance Aimed at Health:

From Industry-Academia-Government Collaboration

一 柳 智 子*

横 溝 聡 子*

ICHIYANAGI, Tomoko

YOKOMIZO, Satoko

要約

令和3年度産学官(株式会社ケイエスエム、郡山女子大学短期大学部、郡山市)連携事業において、本学幼児教育学科は幼児ダンス「きりんさん」(つのだ☆ひろ作詞作曲)を創作し、世に出した。本稿は、提供された楽曲と歌詞に合わせて創作された幼児ダンスの表現運動デザインの動作分析を行い、その内容と幼児への指導実践について報告する。

Abstract

In 2021, in a collaborative project between industry, government, and academia (K.E.S.M. Co. Ltd., Koriyama City, and Koriyama Women's University Junior College), the Department of Early Childhood Education of our junior college created and released the early childhood dance "Kirin-san" (written and composed by Hiro Tsunoda). This paper analyzes the expressive movement design of the toddler dance created according to the provided music and lyrics, and reports on the content and teaching practice of the dance for toddlers.

はじめに

令和3年度産学官(株式会社ケイエスエム、郡山女子大学短期大学部、郡山市)連携事業において、本学幼児教育学科は、株式会社ケイエスエム提供の幼児音楽「キリンさん(つのだ☆ひろ作詞作曲)」に合わせて、幼児ダンス¹「キリンさん」を作成し公表した。

本稿は、幼児の身体とその成育の関係の中で、リズムカルに身体を動かしながら、心身の健康のために良質な効果を与える幼児向けのダンスの創作に関わる産学官連携事業の報告および創作した幼児ダンスを保育現場において指導実践した報告である。

身体の発育発達の段階別では、幼児期は局部的筋肉訓練や循環器による持久力訓練の時期ではなく、神経系の発育発達の著しい時期であることに鑑み多様な運動経験をするのが良いとい

* 幼児教育学科

われている²。

ここでいう幼児とは、生後3年から7年未満の成育的段階の子どもをさす。このような幼児の成育環境に必要なダンスとは、身体の各部位の運動により表現または表出を主たる目的としたリズムカルな運動を意味する。さらに、表現運動デザインとは、その際の幼児の身体各部位の動作を創意工夫し構築した結果の動作軌跡である。

幼児ダンスのデザイン構築は、作成する側の身体を用いて考えるが、あくまでもその対象は幼児の身体である。つまり、幼児にとっての身体運動レベルの適正範囲、感性、環境等をその考慮の根拠としなければならない。成人が作っても成人のためのダンスではないという事である。

身体を動かして遊ぶ場合、幼児の環境にある大小の遊び道具、使用道具とともに遊ぶ場合と、身体運動のみで何らかの刺激によって、幼児自らの身体を動かす場合の2種類に分類することができる。道具の体感化ではなく、自分の身体を使用して、自分の心身の健康につなげる。そのための媒体として、身体の生理的リズムに即した聴覚的リズム及び現前の他の身体を視覚的にインプットする。幼児は視覚・聴覚による感覚によって伝達された身体動作を身体内部へ受容し、運動刺激へとつなげて再現運動へ転換するのである。

1. 産学官連携事業としての幼児ダンス「キリンさん」の経緯

幼児ダンス「キリンさん」は、「知」の時代における産学官連携の重要性³を根拠とした事業として行われたものである。次の3機関は、相互に独創的技術シーズ創出のためのパートナーとして話し合った。

産業界からは、株式会社ケイエスエムが参画した。当該会社は、すでに作曲家つのだ☆ひろ氏による歌詞つきの楽曲「キリンさん」の創作を依頼し、完成していた。音楽と歌詞の創作内容は、両者とも親幼児性を目途としたものであった。

学としての教育機関からの参画として、郡山女子大学短期大学部幼児教育学科による幼児ダンスの創作事業となった。官公庁として地方自治体の郡山市(産業観光部産業創出課産業創出係)が参画した。

郡山市の本事業に関する目的は、次のようである。

市内企業が提供する楽曲に合わせ、貴学生等がダンスを制作し、幼児をはじめ広く市民が楽しんで手指消毒を徹底・習慣化することにより、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の一助とする⁴。

産業界から楽曲の提供があり、それを教育機関がそれに合わせて幼児ダンスを創作した一連の当該連携は、上記のように新型コロナウイルス感染防止対策(官)の一環としての大義を根拠とする。

2. 提供された楽曲「キリンさん」と歌詞

2.1 楽曲「キリンさん」

まず、つのだ☆ひろ氏から楽曲「キリンさん」(つのだ☆ひろ作詞作曲)のオリジナル楽譜、歌詞(資料1)⁵および音源(WAVファイル)が株式会社ケイエスエムに提供された。そして、そのオリジナル楽譜等を株式会社ケイエスエムから本学に提供されたのである。

曲は、ハ長調 4分の4拍子。楽譜には歌のメロディーとコード記号が書かれているのみであるが、音源には前奏2小節と、2番から3番に移る時に2小節の間奏が入れている。また、楽譜の音域には2点ハから3点ハが使用されているが、音源で歌われている音域は1点ハから2点ハである。メロディーには幼児曲に多用されている付点のリズムが全曲を通して使用されている。このリズムは「スキップのリズム」とも呼ばれ、躍動感を表現するリズムであり、ダンス創作に向いているといえよう。また、この付点の弾むリズムは楽しく明るい雰囲気を作り出す効果も生み出している。テンポはオリジナル楽譜には記載されていないが、音源のテンポはBPM126(♩=126)である。

2.2 歌詞「キリンさん」

オリジナル楽譜に付けられた歌詞には会社の製品名が含まれている。しかし、提供された音源では、その楽譜の下に書かれている歌詞で歌われている(資料1)。この歌詞は会社の製品の宣伝的な要素は目立たず、キリン型噴霧器をイメージさせる「キリンさん」とだけ入っている。子どもにとって分かりやすく印象に残りやすい言葉が使用されており、新型コロナ感染症の流行で閉塞的な生活の中にあっても、日々子どもたちが楽しく自発的に手指消毒をすることが出来るようにとの意図が反映されている。

3. 幼児ダンス「キリンさん」の表現運動デザイン

3.1 創作プロセス

デザイン作成者は郡山女子大学短期大学部幼児教育学科の教員および学生2名である。指導日時は次のようである。

- 指導日時：第1回 2022年1月19日(水) 16:10~17:30
 第2回 2022年2月8日(火) 15:00~16:30
 第3回 2022年3月1日(火) 14:00~15:30
 第4回 2022年3月2日(水) 10:00~12:00

資料1 オリジナル楽譜と歌詞

キリンさん

つのだ☆ひろ

Chords: C, G, G, CDEmG7, F, Em, Am, G, F, C, Em, Am, F, Em, G, C

Lyrics:
 バイキン だいっきらい キリンさん おうちにかえれば すぐうがい
 おてもきれいに ありがとうございます まいにちわすれず シュッシュッシュッ
 Clean, clean, clean あんぜんにー しょうどくするなら ヨドックス ネット

キリンさん

バイキンだいっきらい キリンさん
 おそでたのしく あそぶけど
 おうちをでるとき はいるとき
 お手々を消毒するんだもん

バイキンだいっきらい キリンさん
 マーマとおでかけ おかいもの
 ゴミゴミひとゴミ とおるから
 しっかりがいのするんだもん

キレイ、キレイ、キレイ、みんなでキレイ
 キレイが大好きキリンさん

バイキンだいっきらい キリンさん
 きれいにあそぶ わすれません
 たのしくげんきに あそぶなら
 やっぱきれいがだいじだもん

クリーン、クリーン、クリーン、みんなでクリーン
 キレイが大好きキリンさん

3.2 表現運動デザインの創作

表現運動デザインの各動作を資料1下部の歌詞にしたがって分節化して創作したので、それにより説明する(資料2)。

Fはフレーズの意である。①②③の番号は、歌詞の分節化にによって創作された表現運動デザインの1単位の運動デザインの番号である。楽曲は1番から3番まであり、通し番号で示した。

3.2.1 楽曲「キリンさん」1番

F1は、①②③で組み立てられている。

- ①「バイキン」の運動デザインは、幼児アニメキャラクターの「ばいきんまん」⁶の頭上の2本の触覚からの着想である。カウントに合わせて右手左手と頭上の定位置に置く。架空のキャラクターの特徴的容姿を使用して、コロナウィルスという細菌の概念を想起させることができるのは、本キャラクターの幼児一般への認知度の高さによると推測される。つまり、「バイキン」という歌詞の聴覚情報と頭上に2本の指を立てる形状という見立てに加えて、付点の音楽的リズムにより、身体的リズムへ転換させて、幼児ダンスの第1フレーズ動作①となる。
 - ②「だいきらい」の運動デザインは、幼児が日常において何らかの拒絶をする際に身体全体で表現する際の拒否的発語「いや」とともに拒否する動作である両上肢を肘で90度程度屈曲させ腰部でひねり動作を加えた運動の一連のフレーズである。幼児の発育発達における「イヤイヤ」期に頻発する発語と動作であり、首を左右に振る動作とともに2語文あるいは3語文への発達段階において自己主張の身体表現の一つである。細菌というものにはよくないものなので体全体で拒絶している様子を表現する感情表現運動である。
 - ③「キリンさん」の運動デザインは、幼児に人気の高い首の長い動物「キリン」の特徴的な首の長さを片方の上肢を高く上方に上げ、手首で手のひら側に屈曲させる動きのない形状である。1本の上肢はキリンの首、手首より先をキリンの頭に見立てている。正面に向かって側方方向に身体の前面を置くのは、「キリン」の形状が特徴的に示すことができるからである。この身体表現は、本「キリンさん」全体に通底する運動デザインである。
- F2は④～⑧で組み立てられている。
- ④「おそとでたのしくあそぶけど」を表す運動デザインは、付点のリズムに合わせてスキップをしながら小さく1周する動作である。7回スキップをして8回目に正面を向く。幼児は、屋外に出ると気持ちよく楽しそうに走り回る。運動遊びに通底した動作として、身体全体で

楽しさを表すスキップを採用した感情表現動作である。

- ⑤ 「おうちをでるとき」の運動デザインは、上半身と下半身でくの字を模した形状を示す。右下肢の膝関節は伸展し、右足関節は背屈させる。さらに、右上肢は右側に肘を屈曲させて出し、手のひらは5本の指を広げて小さくバイバイの動作をして振る。左手は左腰に当てる。この「バイバイ」の動作は、子どもが家を出るときには必ず「行ってきます」と家人に言うので生活動作の見立てである。
- ⑥ 「はいるとき」の運動デザインは、一旦両手を下で左右に開いた後、胸の高さでクロスする。この動作は、子どもが遊んで帰ってくるときに、「ただいま」と言って家に入り、家人が「おかえりなさい」と迎える一連の生活動作の見立てである。
- ⑦ 「お手々を消毒」の運動デザインは、両上肢全体をそれぞれ左右に伸展し、肩の高さまで上昇させ、その後両上肢全体を水平のまま肘関節の屈曲なく、小さく2度上下運動させる。本事業で扱うキリン型噴霧器の上部のボタンを押下する動作を見立てた運動デザインである。
- ⑧ 「するんだもん」の下半身の動作は⑤と同様である。両上肢の動作は、キリン型噴霧器の上部にあるボタンを押下した場合消毒液が下に向かって噴射されるときに両手を差し出して消毒液を受け一連の生活動作の見立て運動である。したがって手のひらは、消毒液を受けるため上を向いている。さらに、「するんだもん」という言葉の幼児的印象を表現するために、首から頭部および肩は傾斜している。

3.2.2 楽曲「キリンさん」2番

F1の反復が行われる。

F3は⑨～⑬で組み立てられている。

- ⑨ 「マーマとおでかけ」は、両手を下方左右に広げて、両側でテンポに合わせて前後に振る動作である。子どもが母親とともに買い物に行く際の楽しい気持ちを表現している。感情表現運動である。子どもにとって家人とのおでかけは楽しいイベントであり、楽しさをダンスとして音楽とともに表現する動機は、アップテンポな曲調だけでなく、記憶とイメージからの誘導も必要である。
- ⑩ 「おかいもの」は、⑨の感情表現運動からの「おかいもの」の生活動作を加えたものである。子どもにとって買い物に出かけた先のスーパーマーケットにあるカートは印象的であり、この動作は、家人がそれを押す様の見立て運動である。両手は、カートの取手をつかみリズム的下肢運動とともにカートを押す。実際にはない物を見立てて運動デザインされた認知作用による運動である。
- ⑪ 「ゴミゴミひとゴミとおるから」の運動デザインは、一方の上肢を肘関節伸展で後方に伸ば

し、もう一方の上肢は、身体前面において手前方向に屈曲させる。頭部は、後方に伸ばした上肢の方を見る。右上肢後方へ伸ばす動作の次に左上肢後方へ伸ばす動作を行う。この動作は、人が多く混雑した状況下における通行の困難さをデフォルメしたデザインである。生活動作に発するが抽象化によりデザインされた運動である。したがって、子どもの運動理解のためには、「ゴミゴミひとゴミとおるから」の歌詞の言語的説明とともに行われることが必要である。

- ⑫ 「しっかりうがいの」の運動デザインは、基本的生活習慣のうちの一つである「うがい」の生活運動である。下半身の位置を固定しながら、両手を腰につけ上体反らしの姿勢になる。その際、胸筋全体をしっかり伸ばし、目線は上方あるいは上方よりやや後方を見る。胸筋の伸展運動はこの1カ所のみである。幼児期の生活習慣における教育的意義があり、ダンスのリズムとともに身体化するという効果がある。
- ⑬ 「するんだもん」は、歌詞が同様の⑧とは運動デザインに相違がある。この歌詞フレーズの運動デザインは、先行する歌詞の動詞に影響を受ける。ここでは、「うがいをする」に関連した運動デザインが採用されている。つまり、うがいをする際に使用するコップを手に持つポーズの見立て動作である。実際にコップを持っていないが、うがい時にはコップが必要であることを想定した動作といえる。

F 4は⑭⑮③で組み立てられている。

- ⑭ 「キレイキレイキレイ、みんなでキレイ」は、消毒後の黴菌のない手の状態を抽象的に表現した運動デザインである。体軸をしっかり保ちながら、両上肢をそろえて高く上げる。さらに、その位置から手をひらひらと動かしながら両方同時に開く。手をひらひらと動かすことが「キレイ」という意味の象徴的運動である。キレイな様をピカピカ光る具象的な様子に結び付け、さらにピカピカ光る様子を手をひらひらと動かす運動から受ける印象へと結びつけるという2段階の抽象化による運動デザインである。
- ⑮ 「キレイが大好き」は、両上肢、両下肢を開きたいいわゆる「バンザイ」形の動作である。この動作も、きれいになってよかったという意図を表す感情表現動作である。バンザイのポーズで動かない。よかったこととバンザイの関係性の連関は、プラスイメージの感情表現時に一般的にバンザイポーズが汎用されていることによる。

- ③ 前記③と同様

3.2.3 楽曲「キリンさん」3番

F 1の反復が行われる。

F 5は⑯～⑲で組み立てられている。

- ⑩ 「きれいにおそうじ」の運動デザインは、家庭で掃除機をかけている生活運動である。「おそうじ」という単語と「掃除機」との想起は、一般的な連関内である。両手で掃除機の柄の高い部分を持ち、音楽のリズムに合わせて前方右側と左側へ交互に押し出す。その際の下肢動作は、膝関節を90度程度に屈曲させたフォルムで、うしろに蹴るように膝関節をやや後方に持っていく。
- ⑪ 「わすれません」の運動デザインは、⑩の「おそうじ」に関連した雑巾を絞る動作を再現した見立て運動である。歌詞「わすれません」との直接意味関係はない。⑩の表現運動との並列において、種々のお掃除を多様に表現した運動デザインである。
- ⑫ 「やっぱりきれいが」の運動デザインは、両足を揃えて、両手を左右それぞれの大腿部前部あたりをこするように上下に動かす動作である。これは、「きれい」にする動作のイメージを、大腿部をテーブルの上に見たててきれいに拭く生活動作から採用し、構築した運動デザインである。歌詞の意味と運動デザインのかたちとがつかない嫌いがあるため、指導の際は「キュッキュッ」と聴覚によるインプットを付け加えたいうで動作のお手本を示す必要がある。
- ⑬ 「だいじだもん」
- 両手をグーにして肘関節を90度にまげて両脇に開いて出すポーズ。いわゆるガッツポーズである。下肢は、足部を肩幅に広げて膝関節左右に緩めて腰を落とす。全身で頑張っている気持ちを表す一般的に多用されている感情表現運動である。「だいじ」と「頑張る」は語感に連関はないが、⑩からの連続性の中で「きれい」になってよかったへ続く感情の抽象化である。

資料2 創作した幼児ダンス「キリンさん」の動作分析

F 1 : ①②③

①バイキン



②だいきらい



③キリンさん



F 2 : ④~⑧

④おそとでたのしくあそぶけど



⑤おうちをでるとき



⑥はいるとき



⑦お手々を消毒



⑧するんだもん



F 3 :

⑨マーマとおでかけ



⑩おかいもの



⑪ゴミゴミひとゴミ



⑫しっかりうがい



⑬するんだもん



F 4 :

⑭キレイキレイキレイ
クリーンクリーンクリーン



⑮キレイが大好き



⑯キリンさん



F 5 :

⑯きれいにこそうじ

⑰わすれません

④たのしくげんき
にあそぶなら

⑱やっぱり
きれいが

⑲だいじだもん



4. 幼児ダンス「キリンさん」の指導実践

幼児ダンス「キリンさん」を、直接子どもたちへ次のように指導実践を行った。

場 所：郡山女子大学附属幼稚園年長組20人

日 時：第1回 2022年3月8日 30分

第2回 2022年3月15日 30分

指導者：学生2名

子どもたちへ幼児ダンス「キリンさん」を指導するにあたり、事前に30分間の指導行程を立てた。それに従って子どもたちに指導した。

環境設定として、指導者は1メートル弱の高さの壇上に立ち、子どもたちとの距離は、最も近い子どもでも3メートル程度の距離である。指導者と子どもたちは、相互に向かい合った立ち位置であった。

伝達は、音楽を流しながらの指導者の実演による。初めに、キリンさんの楽曲に振りつけた第3章で説明した表現運動をお手本として1曲全部の運動を示した。そしてその後楽曲の歌詞の単位で分割し(第3章の①～⑱)、歌詞を説明用語としつつ指導した。1番から3番まであるので、それぞれ区切りで振り返り、動きを言葉に置き換えながら指導した。

表現運動デザイン創作と指導の2フェーズは指導者側の作業である。子どもたちは、視覚・聴覚による指導により、全体的に運動デザインを再現する作業をする。

まとめ

保育現場において、指導者は創作したものであるとなしに関わらず、音楽・歌詞とともに運動デザインを自己の身体で子どもたちの現前に提示しながら指導している。子どもたちは対面で鏡動作を視覚・聴覚により享受し、自己の運動筋肉において再現するという連続的認知行動を行う。この作業は、身体的健康のみならず、知覚刺激として神経系の良質な作用となり、さらに「うれしい」、「がんばる」等の気持ちを内面に再現しながら行うことにより、心身の健康に大きく役立つものである。

参考文献

ジャコモ・リゾラッティ&コラド・シニガリア、柴田裕之訳、茂木健一郎監修2012『ミラーニューロン』紀伊国屋書店。

榎沢良彦・入江礼子編著2018『保育内容健康』第3版、建帛社。

明和政子2005「模倣はいかに進歩してきたか？—比較認知科学からのアプローチ—」『バイオメカニズム学会誌』 vol.29no.1:9-13.

¹ 本稿における用語「幼児ダンス」は、「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における術語ではない。未就学児教育におけるダンス及び身体表現運動については、「保育要領」の歴史的経緯のなかでは、第二次世界大戦後しばらく「リズム」として重要項目に存在したが、昭和30年以降「音楽リズム」へ変更し、その後消滅した。しかし、平成20年改訂の新学習指導要領により小学校から順次高等学校へと必修化し、現在積極的に教科内で扱われていることに鑑み、あえて幼児教育におけるリズム的表現運動を標榜するために、当該用語を使用した。

² 『シードブック保育内容健康』第3版2018 p40～41.

³ 文部科学省ホームページ

産学官連携の意義については下記参照のこと。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu8/toushin/attach/1332039.htm

⁴ 郡山市から本学への依頼文書「市内企業との産学連携について」内「1. 目的」より抜粋。

⁵ 楽譜と歌詞の本稿への掲載にあたっては、つのだ☆ひろ氏の許諾を得ている。(令和4年9月27日) 本文における楽譜および歌詞は、提供時のままのデータを掲載した。

⁶ ばいきんまんのキャラクターのデザインは下記のホームページ参照のこと。

<https://www.anpanman.jp/>

